

**史跡利神城跡整備基本計画策定専門委員会 会議議事録【概要版】**  
**(令和5年度 第2回)**

日 時	令和6年(2024)2月16日(金) 委員会 13:00~16:00
場 所	兵庫県立歴史博物館会議室
出席者	<p>&lt;委員&gt;※敬称略 任期：令和6年9月27日～令和8年3月31日</p> <p>小野 健吉 大阪観光大学 教授  北垣 聰一郎 金沢城調査研究所 名誉所長  西形 達明 関西大学 名誉教授 (欠席)  福井 亘 京都府立大学大学院 教授  水島 あかね 明石工業高等専門学校 教授  藪田 貫 兵庫県立歴史博物館 館長  山上 雅弘 兵庫県立考古博物館 名誉学芸員</p> <p>&lt;オブザーバー&gt;</p> <p>大本 朋弥 兵庫県教育委員会 文化財課 文化財班 主任</p> <p>&lt;コンサルタント&gt;</p> <p>中野 浩幸 榊都市景観設計 取締役  鈴木 幸一朗 榊都市景観設計</p> <p>&lt;事務局&gt;</p> <p>宇多 雅弘 佐用町教育委員会 教育課長  間嶋 節夫 佐用町教育委員会 教育課 企画総務室長  中村 剛彰 佐用町教育委員会 教育課 企画総務室長補佐  谷口 俊廣 佐用町教育委員会 教育課 事務員</p>
議事等	<p>1. 報告</p> <p>(1) 第1回策定委員会(全体会)会議議事録報告【資料2】</p> <p>(2) 調査報告</p> <p>① 主郭部石垣調査報告【資料3】 北垣委員、山上委員</p> <p>② 登山道調査報告【資料4】 藪田委員長、福井委員</p> <p>2. 議事</p> <p>(1) 第1回策定委員会(全体会)提示資料の修正について【資料5】</p> <p>(2) 史跡利神城跡整備基本計画策定工程(案)について【資料6】</p> <p>(3) 史跡利神城跡整備基本計画(案)について【資料7】</p> <p>(4) 町民参画行事一守ろう 活かそう利神城ミーティングについて【資料8】</p> <p>3. その他</p> <p>(5) 第2回策定委員会(全体会)の日程について</p> <p>(6) その他</p> <p>4. 閉会</p>
配布物	・事務局提示資料(日程、出席者名簿、委員会資料)

## —議事内容—

### 1. 報告

#### (1) 調査報告(資料 3, 4 説明)

##### I 主郭部調査報告(資料 3 説明)

- ① 利神城跡の石垣は危険性の高いものが大半を占めており、先日開催された石垣整備研究会で文化庁と全国の行政の担当者が利神城跡が置かれている現状を目の当たりにしている。そのためこれからは利神城跡の良さ、すなわち本質的価値をどう生かしていくか、そして地域の皆様どう還元していくのかということこれからやっていかなければならないのではないかと。(北垣委員)
- ② 石垣や地盤の問題など利神城跡の抱えている問題は非常に大きいですが、同時にどのような方策をこれからとっていくのか全国的に注目もされている。そのため様々なことが提案できるモデルケースになるのではないかと考えている。今後は積極的に県や文化庁に提案をしていくことが重要なのではないかと。(山上委員)
- ③ 整備に入る前に少し時間をいただけるような方策と、それを実行できるように情報発信と提案を行うことが大切である。利神城跡の特殊性や問題点を考えた際に、拙速に走ってしまい失敗してしまうよりは、まずは提案し猶予をもらうことが大切だと考える。(山上委員)
- ④ 利神城跡と同じく大きな問題を抱えている歴史的価値のあるというのは全国に所在している。先日開催された全国城跡等石垣整備調査研究会においても本中さんから改めて石垣カルテ及び石垣整備の手引きの見直しを図るべきではないかという意見も出された。(北垣委員)
- ⑤ 石垣の歴史的価値の周知を図ると同時に、利神城跡の石垣が危険であることの周知を図っていくことも重要ではないか。(山上委員)

##### II 登山道調査報告(資料 4 説明)

- ① 「登城道の安全性の在り方と整備の方法の検討、実行が必要である。」という点、「登城道に関わる樹木の除伐・伐採、管理を行う必要がある。」という点。「休息場所についての整備を実施し、登城者への利便性を上げる。」という点が考えられる。(福井委員)
- ② 登山道の整備については史跡なのであまり手を加えたくない。環境省の自然公園当施設技術指針にあるような材木を利用した木道なども整備が参考になるのではないかと。(福井委員)
- ③ 登山道の樹木について、どの樹木をどう扱うかを定めることは重要だと考える。また智頭急行との接続部周辺の樹木整備は早いうちに実施したほうが良い。(福井委員)
- ④ 休憩場所について三本松公園の周辺の整備は必要だろう。またロープを直接括り付けられている樹木が確認できた。ロープが食い込んでおり早晩枯れて下の線路に落ちる恐れがあるのでこの辺りの整備は史跡が痛まない程度に行うのが良いと考える。(福井委員)
- ⑤ 登山道に所在する天王神社跡について、大きな要素になりうるため由来や経歴を記録として残す必要があるか。(福井委員)

### 2. 議事 (資料 3-1、3-2 説明)

#### (1) 第 1 回策定委員会(全体会) 提示資料の修正について【資料 5】

#### (2) 史跡利神城跡整備基本計画策定工程(案)について【資料 6】

- ・ 専門委員からの意見

- ① 目次案については管理・運営は別立てにしてもらった方がすっきりするように感じる。(小野委員)
- ② イノシシなどの野生動物への注意喚起は必要ではないか。(小野委員)
- ③ 天王神社跡の祠について周知の埋蔵文化財包蔵地にもなっていないようなので、周辺を改めて踏査し、現時点での判断をしていただくのが良いか。本格的な調査は今後整備計画内で検討していけばいいが、まずは館部分の調査が優先となるか。(オブザーバー・大本氏)

### (3) 史跡利神城跡整備基本計画(案)について【資料7】(コンサル・中野説明)

- ① オランダの保存の考え方としてはオリジナルのものに手を加える際は明らかに手を加えているようにわかるようにし、いつでもオリジナルの状態に戻すことができるようにするというのが大前提である。今回石垣の根固め工の保存対策案のイメージを見た際に、明らかに異物を挿入されている感じがしたので、このようなやり方が一般的なのかそれとも他に方法がなかったのか。(水島委員)

↓

保存対策案については失われた犬走を土で戻すことは困難であり、応急処置として使用されていた砂利ネットをできるだけ使いたいということもあったので、この工法をとらざるを得なかった。(コンサル・中野)

- ② 整備対策案の根固め工についてこの工法が有効であるとは思えない。中野さんの方でもこうせざるを得なかったのだと思うが、総合的に城を守ることを考えれば資料のような10年もつかもわからない工法より石垣下の地面を切って平坦面を作り、土嚢等を積み上げながら石垣の下端を抑えるようなやり方のほうが有効だと思う。しかし文化庁は地面を触ることを認めないので、この場で言っても仕方ないが文化庁には今までの考えを改めもう少し柔軟に対応していただきたい。そのためには文化庁には委員会へ出席してもらい利神城跡の現状を理解してもらう必要がある。(小野委員)
- ③ 基本方針に安全な管理通路の構築や維持に努めるとあるが、現実問題として難しいとのこととこれについて事務局はどう考えているのか(山上委員)

↓

一番の問題としては資材や重機を持って上がることができないという点である。仮に重機を解体して持って上がったとしても、上で組み立てる機械が必要であり、それをあちこちの廓まで運ぶことは困難である。そのため資材の運搬が最大の問題であると考えている。(事務局・中村)

- ④ 更に問題点として、ほかの山城の場合、山頂に土の廓で広い場所といった作業ヤードの役割がある場所があるものだが、利神城跡は山頂が狭く、全体を石垣で造られており廓ごとに高低差があり、作業用の資材や機械の移動が難しい状況である。そのためこういう事情を整理して訴えかけていかなければ誤解を招いてしまうと考えている。(山上委員)

- ⑤ 根固め工について地面を切るといのが本来のやり方ではあると思うが、それが困難であるなら根固め工を2段、3段と増やし耐久分散を図る箇所を検討するのも一つの方法ではないかと考える。なんにせよ文化庁の担当官に来ていただくのが一番ではないか。(福井委員)

↓

今回は日程調整がうまくいかなかったが、委員会の内容によっては出席を求めるという相談はしている状態である。今回の議事内容については後日文化庁に説明、協議をして共通理解を図っておく必要がある。また現状変更の部分に入ると史跡部門の調査官との調整も必要になってくるためその辺りも今後行おうと考えている。(オブザーバー・大本氏)

- ⑥ 利神城古図を見ると、山城が機能しなくなってから下の御殿屋敷が本格的に機能するのではないかと考える。そうすると、山城が使われていた戦乱の時代が終わり御殿屋敷の時代に変わっていく様子がこの図には描かれているのではないか。(北垣委員)
- ⑦ 当時の当時の土木技術者、つまり石を積む技術者を穴太というが、その穴太が持っている技術の中には城の石垣だけではなく河川の技術もある。そのような両方の技術が偶然残っている。せっかく整備をするのであれば河川を生かした、地域の皆さんに理解してもらうようなことを入れてもらいたい。(北垣委員)

↓

御殿屋敷跡は佐用川と庵川が合流する地点にあり氾濫原で危険な場所にある。狭い平地の中に造られ、全体を石垣で囲まれており構造的には居館というよりは平城といっても構造。河川のほうは洪水の際の整備対策で河川を広げたということで河川の側は後退して残っていないが、復元の石垣をつけて平城の範囲を明示してくれているのでそのあたりも含めて整備に取り込んでいければいいか。(山上委員)

- ⑧ サインについて、利神城古図を並列させて現在位置を示すサインを作ってもいいのではないか。また、そうする場合はサインを統一させたほうがいい。(福井委員)
- ⑨ 登山道の切通しについて、過去に使われていた人道橋の基礎の跡が確認できたのでそれを利用すればコストを抑えられるか。(福井委員)
- ⑩ 登山道に設置する木道について、材木を利用しはっきりと登山道を見せるか、木の根が多い箇所は屋嶋城のようにデッキのような形をとるのか、その辺りは検討していただきたい。またその際メンテナンスとそのコストについても考慮して検討してほしい。(福井委員)
- ⑪ 休憩場所についてあまり大仰に整備する必要はなく、ベンチを置くぐらいでよいか。ただし、安全面に重点を置きそこにお金をかけていただきたい。(福井委員)
- ⑫ 既存のサインを今後撤去するのか、それとも活用するのか。その辺りを考えていただきたい。(山上委員)

#### **(4) 町民参画行事 守ろう 活かそう利神城ミーティングについて【資料8】 ・専門委員からの意見**

- ① ワークショップについて現状1回しか開催を計画していないのであればプロ入れてやるべきか。ワークショップ慣れしているところは先に答えを用意してその結果参加者が動かないということがよくあるため、それを崩すためにプロを交えて実施し、次へつなげて行くようにしてはどうか。(水島委員)

- ② 全体を通して、利神城跡が抱えている問題は日本では例がない新しい課題であり、文化庁の問題も一緒に考えると大きな会議では間に合わないことも出てくる。そのため石垣部会のようなものを作り北垣委員、西形委員、山上委員、小野委員にも会議に入っただき、そこで別途議論していただいて肝心なところを詰めていければいいと考える。(藪田委員長)

### 3. その他

#### (1) 第二回策定委員会(全体会)の日程について

- ① 次回委員会は6月を予定。



委員会状況